

国語 第1学年 こえに出してよもう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：チロの行動を場面の様子と結び付け、声に出して読むときの言い方を考える。大きな声や演技の派手さを競わず、なぜその読み方にしたかを行動の言葉から話す。C(1)エの学習として、音読の考えメモ。選んだ場面、行動、想像した様子、試した読み方と理由を残す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、場面の様子に着目し、チロの行動を具体的に想像して読み方を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：音読の考えメモを残す。選んだ場面、行動、想像した様子、試した読み方と理由を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)エに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：気持ちを本文と無関係に決める。読める速さや声量だけで比べる。これについて、行動が書かれた所を示してから、声の強さや間を試す。音読が苦手な児童は教師との交互読みや選んだ短い箇所の音読にする。会話は教科書で確認し、配付資料に転載しない。〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(1)クとC(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この場面のチロは何をしていますか。その様子を思い浮かべると、どんな読み方が合いそうですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：音読の考えメモは紙に記録できる。選んだ場面、行動、想像した様子、試した読み方と理由を残す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：音読の上手さで評価するのか。

返し：C(1)エは行動の想像を評価する。流暢さとともに、場面のどの言葉から様子を思い浮かべたかを、口頭説明やメモから確かめる。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この場面のチロは何をしていますか。その様子を思い浮かべると、どんな読み方が合いそうですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

